



学校だより

学校教育目標

ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第10号

令和2年8月27日発行

文責 校長 宮地 浩幸

3週間の夏休みを振り返り

新型コロナウイルスの感染防止に伴い1学期は学校が臨時休業になり、その影響で夏休みが短縮されました。この3週間は、九州各地に大きな被害をもたらした長い梅雨が明けた後、高温多湿の環境の中で、勉強や運動をするのにも大変な夏休みだったと思います。それでも、学校への事件や事故の報告はなく、子ども達が元気に夏休みを過ごしてくれたことと安どしています。



7月は陸部に比べ島は気温も低くかなり過ごしやすい環境でしたが、8月になればその有利さも薄れ、熱中症の危険が襲ってくる毎日でした。そのような中で8月6日(木)に育友会除草作業を行い、多くの児童生徒及び関係者の参加をいただき、大変ありがとうございました。当日は、夕方からの作業でしたが、気温も高く大変なご苦勞を掛けました。特に学校回りの斜面の草払いについては、学校職員のスキルでは難しいこともあって、育友会の皆様にご協力いただいたことと大変感謝申し上げます。お陰様で、2学期を迎える準備ができました。

これまで、一般的に中学校では、7月中に県の中体連まで終了し、部活動が完全に2年生にバトンタッチされる時期でもあります。本校では、バドミントン部の中学3年生は最後の大会でしっかり頑張り、その活動を終わりました。いよいよ受験に向けて頑張る時期になりました。夏休み中に何度か学習会を実施し、これまでの復習を頑張りました。テニス部は3年生がいまいませんでしたので本年度中体連への参加ができずに、次の大会へ向けて暑い中でもテニスコートでしっかり汗をかいて、練習に励んでいます。中学生や小学生が暑い中ですがしっかりスポーツに打ち込んでいる姿を見るととてもすがすがしい気持ちになります。加唐小中学校は小さい学校ではありますが、文武両道、勉強も運動もしっかり頑張る学校です。

始業式(2学期が始まりました)

例年より約1週間2学期の開始が早くなりました。8月24日(月)の朝、気温はすでに29度(校長室)に達していました。そんな中で、校門で子ども達の登校を待っていました。みんな「おはようございます。」と挨拶をし、元気に登校できました。子ども達の元気な姿を見ると、心からホッとします。8月末の厳しい環境の中ですが、若い力は、それを乗り越え勉強やスポーツそれに、行事が多い2学期の学校生活を頑張るんだという意欲に満ち溢れているように感じました。

始業式では、子ども達が元気よく校歌を歌うことができま



した。学校において校歌を高らかに歌う様子は、学校管理者として大変誇らしく思えると同時に、地域からの愛情を感じることが出来ます。これまでの歴史や伝統を子ども達がしっかりと受け継いできているという安心感は、学校経営をする上においての何よりの強みとなります。

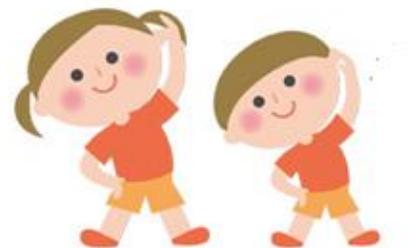
さて、まだまだ猛暑日が続き、気温は夏真っ盛りなのですが、セミの鳴き声も変化してきました。セミは種類によって、羽化する時期が異なります。クマゼミのやかましい鳴き声はまだするものの、その中にツクツクボウシの鳴き声が聞こえてきました。秋の近づきを自然が知らせているのです。「暑いのももう少しの辛抱。」そして、今年は学校と保育所だけで行う体育大会をみんなで作り上げなければなりません。子ども達にとっては初めての試みで不安もありますが、成し遂げた時の達成感も大きいと思います。上級生を中心に、話し合いがなされ、2週間の準備期間を経てどのような仕上がりになるか楽しみです。

そして、中学3年生や小学校6年生は最終学年としての仕上げを行わなければなりません。それぞれ上級学校への準備期間となります。特に中学3年生は受験を控えることとなります。本校での最高学年の生徒として、他の人たちをけん引すると同時に、自己実現を目指し、悔いが残らぬようしっかり学習に励んで欲しいと思います。始業式では校長の話として子ども達に以上のようなことを伝えました。

子ども達の心身の健康は大丈夫でしょうか？

全国的に、コロナ禍において、子ども達にとって心身のストレスは大きなものがあるでしょう。身体的な面はもちろんのこと、学校行事、部活動や各種大会での変更や中止に例年通りとはいかない悔しさやモヤモヤを察すると心のストレスもまた大きなものがあると思います。世間では新型コロナウイルスの感染に関して、SNS上の誹謗中傷により学校から足が遠のいている子ども達も少なくありません。そのような中では、ウイルス感染を恐れるあまりにいわゆる「コロナうつ」の症状がみられるようになるそうです。実は、コロナ禍でなくても、毎年、2学期が始まる日は、全国的に学生の自殺者が最も多い日です。これは、この時期に子ども達の心理的な状況が最も不安定であると考えられることができると思います。子ども達にはSOSの発信を、保護者にはSOSの受信を意識して欲しいと思います。

加えて、まだまだ猛暑が続きます。コロナ対策と熱中症対策はマスクの着用などについては反するような対応ですが、飛沫感染を防ぐ目的で行われていると認識すれば、飛沫がかからないような工夫をすればよいだけの話です。何のために行っているかを考え、適切な対応を心掛けましょう。心身の健康は栄養、睡眠、規則正しい生活習慣がベースになります。健康づくりの本質を忘れず、コロナ対策や熱中症対策を心掛けたいものです。



修学旅行

新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴い、本年度の唐津地区内の小中学校においては、泊を伴う県外への修学旅行は中止になりました。中学3年生や小学6年生には、とても残念なお知らせですが、命の保障を考えた時仕方ないと考えなければならないと思います。修学旅行の意義はいろいろ考えられますが、校舎を離れて学習することでいろいろな視点から物事が見えてくるということが最も大切だと思います。例えば「平和の希求」について学ぶとき、命の大切さを1学期、多くの先生方から指導してもらいましたが、県外の施設で展示品や講話などを通じて直接体験することで、その思いは確実に違ったものになるはずです。今、学力が認知的な力（例えば漢字を覚えるとか計算ができるなど）だけではなく非認知的な力（意欲的に学ぶとか、体験して感動するなど）もとらえて考えられようとする時、修学旅行（特に泊を伴うものは子ども達に普段以上の感動を与える要素がある）は非認知的な力を培うのに大きく寄与すると考えると改めて残念でなりません。早く新型コロナウイルスの終息を願うばかりです。本年度は、限られた中ではありますが、形を変えて実践しようと思います。